

つながるの昔っこ (昔話) ⑥

3人の息子

(津軽弁)



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

あるどごさ、ところに、男わらしばり三人いるお父（どう）居であたど。三人とも一人前になつたばて、誰さを跡とらへればいいが迷っていたど。普通だば、長男（あに）さ跡（あと）継がへるんだばってせ、長男（あに）ア正直さ馬鹿ついだんたお人良しで、おまげに頭コアあんまり良（い）ぐねくってあたど。

それにくらべて次男ア（おんじ）、頭良くて算段勘定も上手であたど。末子ア（よでこ）又、きばしねくて、目（まなぐ）がら鼻さ抜げるんた賢しい（さがしい）わらしこであつたど。



ある日、お父（どう）、三人ばを集めで、『さ、ここさ座れ。今、お前たち（おめだじ）さ同じように資金（もとで）やるはんで、この資金（もとで）で好きだように稼いでみる。そして5年目の今日。また家に戻ってこい。その時、誰さにこの家を継がへるが決める』てしたど。



さあ、2人の弟『よおし、沢山（うって）儲けて戻ってくるぞ』って、張り切って出て行っただ。長男は困ったばたて行がねわけにいがね。これ、渋々出はて行っただ。

ずーっと旅して行ったきや、疲れてきたどごで、村の外れのボロだお堂の下で休んでらど。
ウトウト眠てらきや、男共（おどごんど）ドヤドヤとやってきて、お堂このさ馬車から材木ば降
ろし始めだど。



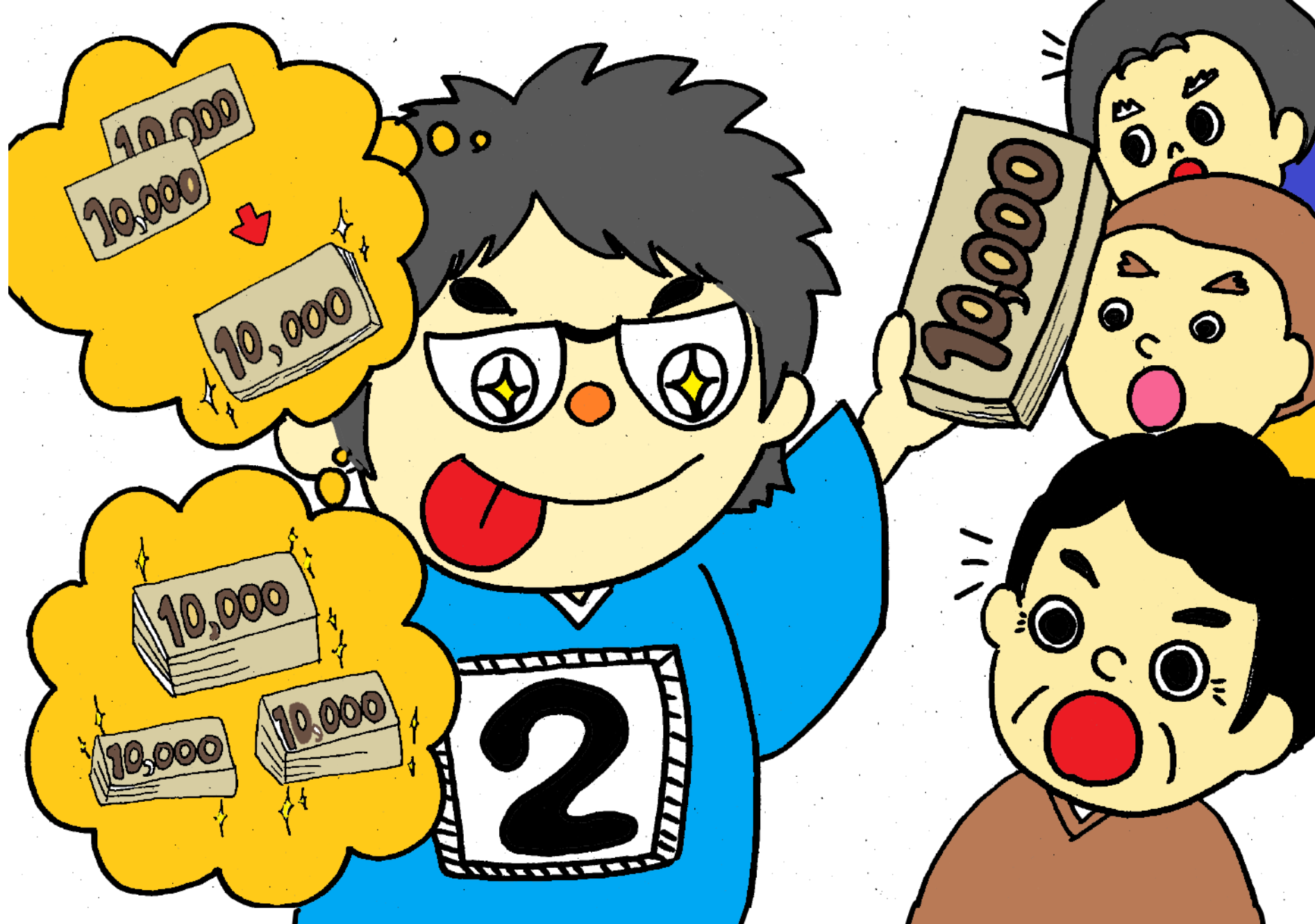
降ろし終わったきやみんな一服してせ、その中の親方『このお寺のお堂、秋の祭りに前（めえ）になんたかた直してしまわなばまいね。村長様がらもきつく言われでる。したばって、人手が足りなくて困ったじゃ』



お堂の脇で休んであった長男ア（あに）それば聞いて『親方、親方、我（わ）とば何とか使ってけへじゃ。何でもやるはんで』てして、この親方さに雇われたど。

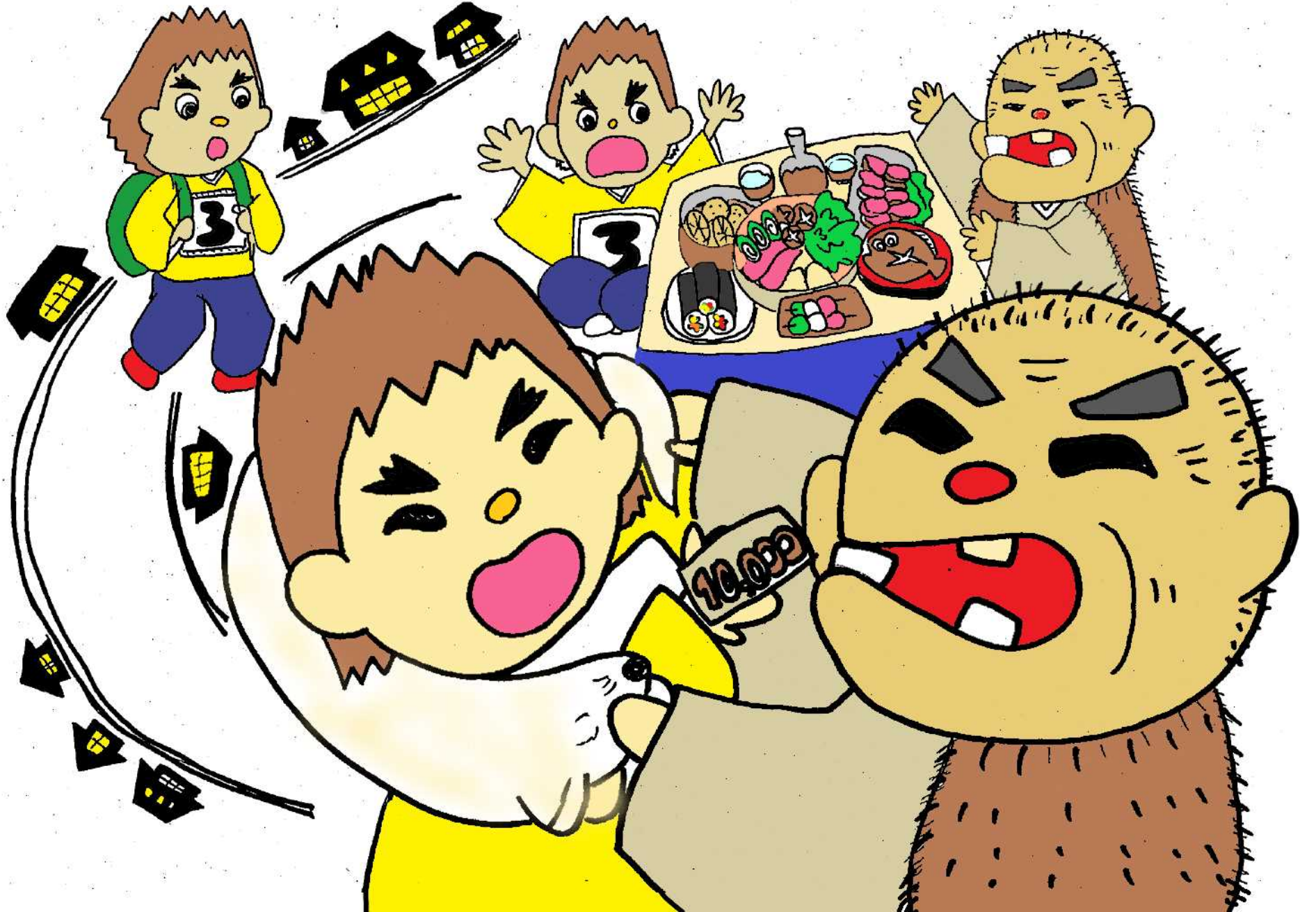
次男（おんじ）もずーっと旅して行ったきや、ある宿で男共（おどごんど）集まって、大（で）
っただ声で話してあったど。黙って聞いてらきや、小豆の相場の話であったど。だんだん面白ぐ
なって、知らず知らず、次男（おんじ）もその輪の中さ入っていたど。





一人の男がら勧められで、お父がら貰った資金（もどで）から少し小豆の相場さ投資してみだきや、これ当たって儲げだど。次はその倍賭げでみだきや、んにゃんにゃ、これ又当たってよ、銭こ、何倍にもなって戻ってきたど。面白くて、面白くて、最後、持ってら銭こ、みんな、どっと賭けてみだんだどせ。

末子（よでこ）もほれ、何へばいいべなあとって旅して行ったきや、ある村さ来た時、陽く
れでマタギの家さに泊めでもらったど。そこで泊めてもらったお礼に、少し余計（よげ）錢こ出し
たきや、マタギ喜んで、テンの皮呉（け）でよごしたど。テンてすのは、鼬（いだじ）の仲間だよ、
その皮こア、しならしならって、きれいがだで、いい皮コだずんだ。





末子（よでこ）が大きい町まで来た時、その町の金持（おおやげ）の家のおがみさん、そのテンの皮ば見で、『ゆずってけ』てして大金で買ってけだど。

『これアおもしろい。我、ひとつ商売すべえ』てして商人になったど。仕入れでは売って、仕入れでは売って、とうとう大船ば買って海の外までも商売ばする大商人になったど。

こうして、5年たったど。
五年目のお父決めだ日、息子達三人、家さ帰ってきたど。
お父、三人と酒コ飲みながら話コ聞きだど。



まんず、末子（よでこ）、しゃべったど。

『我、商人になったのせ。毛皮がら始めて、食うもの、着るもの、材木など 何でも商ってせ、最後は海の向こうの外国さまで売り買いに行ったんだ。その為に船ばこさえてよ、莫大で借金をしたのせ。この船で外国がら珍しい物いっぺえ仕入れて、日本で売れば借金ば返（すま）しても、まんだまとまった大金、手許さに残るはずであったのよ。したっきゃ、その船、嵐で沈んでまってよ。俺スッカラカンになってしまったんだね。それがらずっとホイドだけんにして暮らしたじゃ。



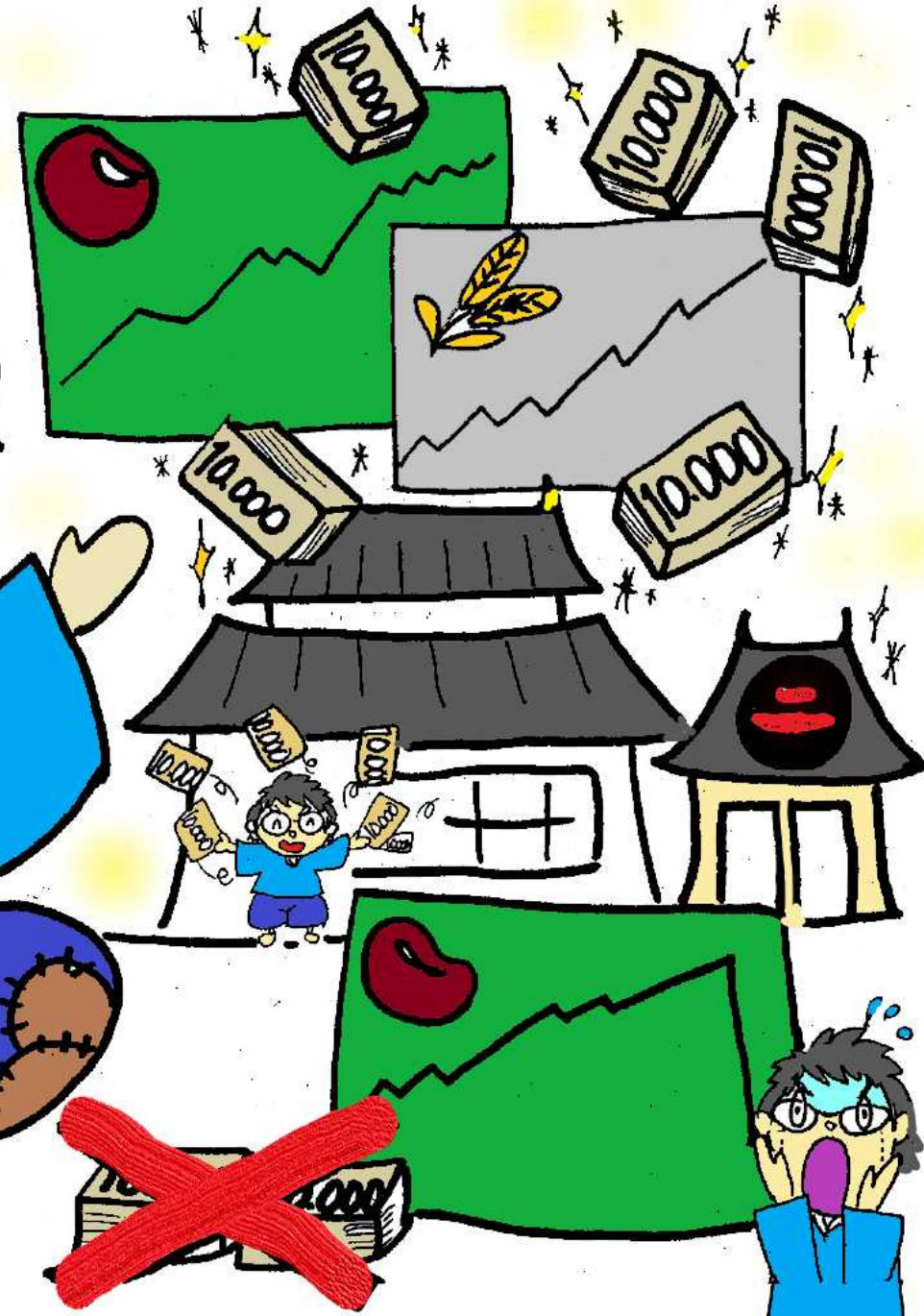
こんだ、次男（おんじ）しゃべったど。

『我、小豆の相場で当たってよ。それからおもしろくなって、大豆だの麦だのって、手当たり次第相場張ったきや、次々と当たって大金ば手さ入れたのせ。大（で）っただ家も蔵も建て、めえ物も食て、人さも銭コばらまいでもんだ。

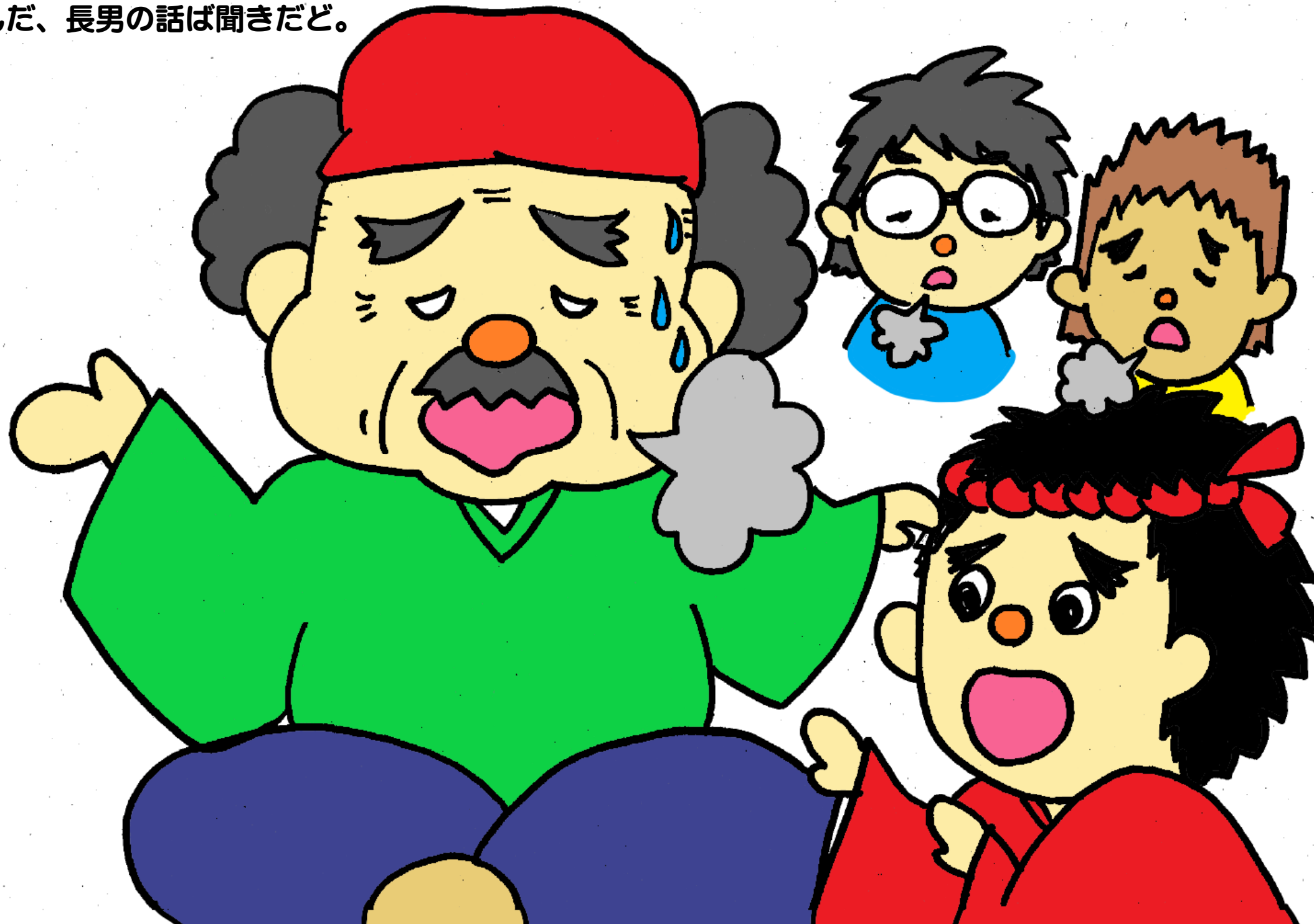
これだば威張って家さ帰れると思ってだきや、最後に思い切り張った相場、ものの見事に外れでよ、



俺もこの通り末子（よでこ）だけに、にスツカラカンになってまったじゃ。銭コ借りに走り回ったけばて、誰（だん）も助けでける人もいねえ。あれほど寄ってたがってきた人たちも誰もくるもんでねえ。い、それからずーっと日雇いやって暮らしてらのよ』



お父ア 『フウツ』とため息ついで、
こんだ、長男の話ば聞きだど。



『我ア、弟達だけに頭も良くねえし、気も利がねえ。ある縁で大工の親方さ拾われて弟子になって、下働きばかりしてあったばて、だんだん大工の仕事も仕込んで貰て、今まで宮大工の弟子コになつたてあったんだ。

五年で年季あげだどこで、こうして大工道具ば一揃い祝儀に貰て戻ってきたどこだ。



お父『へば、おめ、資金（もとで）の銭コ どしたば？』

長男『ああ、あの銭コだば、そのままござあるじゃ』って、お父さのべだど。

それを聞いたお父ア『なんぼ馬鹿だえんても、長男ア（あに）あにだけある。』てして跡を継がへることにしたど。

錢こそ貯めるのもゆるぐねばて、儲げだもの使うずもの、もっと難しいもんだ。



人が要（い）るものずもの、一汁三葉、三食のまんまど置一置の広さあれば、それで足りる。大金持ちになったはでって、食い物2倍、3倍も食えるずもんでねえし、着物十枚も着て歩げるもんでもねえ。

毎日、湯水（ゆみず）だけんに金入ってきたってしても、それ持ってあの世にいけるもんでもねえ。後さ残せば子供達（わらはんど）、贅沢おべで働がなくなる。三代目はお決まりのかまど消した。

さて、お父の家では、長男（あに）が跡を継いで、次男（おんじ）も末子（よでこ）も一からやり直して、十年も経ったきや、それぞれカマド立で、それがらずもの、堅くあずましく暮らしたど。

昔から『若いときの苦労ずもの買ってでもしてみろ』ってすべえ。
『かわいい子には旅させろ』ってもす。

それにしても、この子供達（わらはんど）のお父ず人ア偉い人だねし。



とっちばれ